

# 【秋川高校跡地及び周辺地区の現況、課題、方針の流れの整理】

## 1. 地区の現況など

(1) 地区(周辺)の現況・特性

### 《 立地 》

- 圏央道日の出 IC が 1 km 圏内にある
- 鉄道駅（秋川駅、武蔵引田駅）が 1 km 圏内にある
- 周辺に、農地や住宅、学校、福祉施設、大型商業施設、研究所が立地している
- 台地に位置しており、防災性が高い



### 《 地域資源 》

- 地域のシンボルであるメタセコイア並木が存在しているが、活用されていない
- 圏央道より西側には、公園がほとんど整備されていない

### 《 人口 》

- あきる野市全体の人口は減少傾向にあり、年少人口の割合も減少傾向にある（高齢化が進んでいる）（R5年時点）
- 検討周辺地域の人口は増加傾向にあるが、年少人口及び生産年齢人口の割合は減少傾向にある（高齢化が進んでいる）（H27年時点）

### 《 住環境 》

- 過去 5 年間で、周辺に新たな住宅が整備されている
- あきる野市は持ち家率が高い

### 《 産業 》

- 過去 10 年間で、IC 周辺や武蔵引田駅周辺において工業立地が進んでいる
- 西多摩において企業立地を検討している企業が多数ある
- あきる野市の地域経済循環率は近隣自治体と比較して低い

(2) 近年の社会情勢

### ■ 人口減少、少子高齢化の進行

・全国的に人口減少、少子高齢化が進行しており、経済規模の縮小や労働力不足など様々な社会的・経済的な課題が深刻化する

### ■ コロナ後の生活様式の変化

・感染症の影響下においてデジタル化が加速し、新しい生活様式や暮らし方の多様化に対応した社会基盤の整備や仕組みの構築が求められている

### ■ コンパクトシティの推進

・全国的にコンパクトシティ政策が進められており、生活利便性の維持・向上等に向け、居住や都市機能の集積が推進されている

### ■ ウォークラブルなまちづくりの推進

・都市の魅力を向上させ、まちなかににぎわいを創出するため、多様な人々が集い交流する「居心地がよく歩きたくなるまちづくり」が推進されている

### ■ こども子育てにやさしいまちづくりの推進

・こどもの遊び場や親同士の交流の場の整備など、こども・子育て支援環境の充実に向けた取組が推進されている

### ■ 地域コミュニティの希薄化

・地域づくりの基礎となる地域コミュニティが、若者の流出やコミュニティ構成員数の減少等により希薄化しており、多様化する地域課題への対応が難しくなっている

### ■ 環境問題の深刻化

・気候変動や生物多様性の低下など、環境問題の深刻化によって国際的に環境に対する意識が高まっている

(3) 上位計画の位置付け

### 《 都市計画区域マスタープラン 》

- 市街地整備の見通しが明らかになった段階で、農林業との十分な調整を行い、市街化調整区域から市街化区域に編入し、周辺市街地との調和を図り計画的に市街地を形成する

### 《 総合計画 》

- 周辺市街地との調和や自然環境の保全に配慮しながら、産業系複合市街地のまちづくりの特性に合わせて企業立地を推進

### 《 都市計画マスタープラン 》

- 既存の企業や農業など地域特性との連携の可能性を検討しながら、次世代型の新たな産業を視野に入れ、周辺環境との調和と共生に配慮した産業の誘致を図るとともに、良好な複合市街地の形成に向けた基盤整備を促進

(4) 市民意見

- 「市内に住み続けたい」と考えている市民が多く、かつ住宅を住み替える場合には「自然に恵まれた環境」を望むニーズが近年高まっている
- 「水と緑に密着した生活環境づくりの推進」が重要と考える市民が多い
- 秋川高校の歴史メタセコイア並木の保全を望む意見が多くある

## 2. 地区のまちづくりの課題

### (1) 産業機能の必要性

- IC 周辺の高い交通アクセス性を活かした産業用地の確保  
検討区域は日の出 IC から 1km 圏内にあり、広域交通利便性が高く、企業の進出ニーズが高いため、産業用地の確保が必要である。
- 地域の活性化に向けた雇用の創出  
人口減少等の地域課題へ対応するため、雇用の創出が求められる。

### (2) 生活機能の必要性

- 鉄道駅周辺の都市機能集積を活かした更なる生活利便性の向上  
検討区域は鉄道駅の徒歩圏域にあり、周辺には商業施設等が立地していることから生活利便性が高く、今後も一定の住宅需要があるため、子育て施設等の立地を図るなど、更なる生活利便性の向上が求められる。
- 新たな住居ニーズへの対応  
コロナ後の生活様式の変化を踏まえ、職住近接の考え方やネイバーフッドコミュニティの形成、農と住の調和など、新たな住居ニーズへの対応が求められる。

### (3) 交流機能の必要性

- にぎわいやコミュニケーションの促進に向けた地域交流の場の創出  
災害対応などの近年複雑化する地域課題への対応や、地域のにぎわい創出に向け、地域のコミュニケーションを促進する交流の場づくりが求められる。
- 地域にある豊かな緑資源の保全と活用  
検討区域内には、地域のシンボルであるメタセコイアがあるが、地域に開放されておらず、活かされていない。  
また、自然に密着した生活環境を重要とする市民ニーズや生物多様性などの観点から、緑資源の保全と活用が求められる。

### 3. 地区のまちづくりビジョン

《まちづくりの理念》

**イノベーション**  
新しい創造が生まれる

**インクルーシブ**  
誰もが暮らしやすい

**サステイナブル**  
持続可能な環境

《将来像》

(仮) **住・農・産・商・福・学**の機能が融合する集約型複合拠点地域の形成

#### 働きたくなる産業拠点の形成

日の出 IC からの交通アクセス性を活かすとともに、  
周辺の環境と連携した次世代型の「働きたくなる」産業  
拠点の形成

- **利便性が高く自然に囲まれた健康的に働ける環境づくり**
  - ・ 鉄道駅や住宅地と近接し、通勤利便性が高く、豊かな自然環境や美しい景観の中で健康的に働ける環境づくり
- **安定的・持続的な経営環境づくり**
  - ・ 企業参入や省エネルギー設備導入などに関する行政支援や、台地に位置する高い防災性により、安定的・持続的に経営することができる環境づくり
- **地域に開かれた環境づくり**
  - ・ 周辺の施設と連携し、豊かな生活をサポートする地域に開かれた新しい産業の環境づくり
- **新たな価値が生まれる環境づくり**
  - ・ 様々な分野の企業が集積することにより、新しい事業やアイデア等が生まれるクリエイティブな環境づくり

#### 暮らしたくなる生活拠点の形成

秋川駅に近接する高い生活利便性を活かしつつ、周辺の施設  
や地域資源と連携した3世代で「暮らしたくなる」生活拠  
点の形成

- **あきる野市らしいサステイナブルな環境づくり**
  - ・ 地域に残る自然・農業環境に囲まれた、あきる野市らしい豊かな暮らしをおくることができるサステイナブルな環境づくり
- **誰もが暮らしやすく住み続けられる環境づくり**
  - ・ 台地に位置する高い防災性と、近接する鉄道や福祉、学校、商業施設などが生活利便性を高め、誰もが安全・快適に住み続けられるインクルーシブな環境づくり
- **交通利便性の高い環境づくり**
  - ・ 小型シェアモビリティの導入により、環境に優しく、気軽に移動できる交通利便性の高い環境づくり

#### 憩いたくなる交流拠点の形成

地域のシンボルであるメタセコイア並木を活かした、  
緑豊かで「憩いたくなる」交流拠点の形成

- **豊かな自然を中心とした公園・広場の環境づくり**
  - ・ 地域のシンボルであるメタセコイア並木を中心に、マルシェ等の様々なイベントを実施できる、自然にあふれた公園・広場の環境づくり
- **新たなコミュニティやイノベーションが生まれる環境づくり**
  - ・ 産業や学校、福祉など様々な関係者の活動・交流の場となり、新たなコミュニティやイノベーションが生まれる環境づくり
- **まちの回遊性を高めるウォーカブルな環境づくり**
  - ・ 秋川駅や武蔵引田駅から地区内をつなぐ、緑のネットワーク（遊歩道・自転車道）の整備により、まちの回遊性を高めるウォーカブルな環境づくり

《まちづくりの方向性》

それぞれの機能が  
交わり合う、新しい  
あきる野ライフスタイルのイメージ

《検討区域内の連携》

産業 × 住宅

- ・ 企業のエネルギーのスマート化や防災備蓄、保育施設等の開放により、平時や被災時に地域をサポート



産業 × 公園

- ・ 地元の生産物・製造品を公園内で開かれるマルシェで販売
- ・ 研究所が公園で公開実験を実施



住宅 × 公園

- ・ メタセコイア並木近くのベンチで憩う
- ・ キッチンカーやマルシェなどの公園の催しに参加し、地域コミュニティを築く



産業 × 農地

- ・ 農産物の加工場や農村レストンなど、周辺農地の食材を活用した食品・関連産業と周辺農地の連携



産業 × 福祉

- ・ 障がい者雇用を促進し、障がい者が一般社会で活躍する機会を創出



産業 × 学校

- ・ 産業と学校が連携し、職場見学や出前事業を実施
- ・ 共同研究による商品開発



公園 × 学校

- ・ 学習、部活動成果を発表するイベントを公園で実施し、地域と交流
- ・ 放課後に子ども達が遊べる、憩える場としての公園



住宅 × 農地

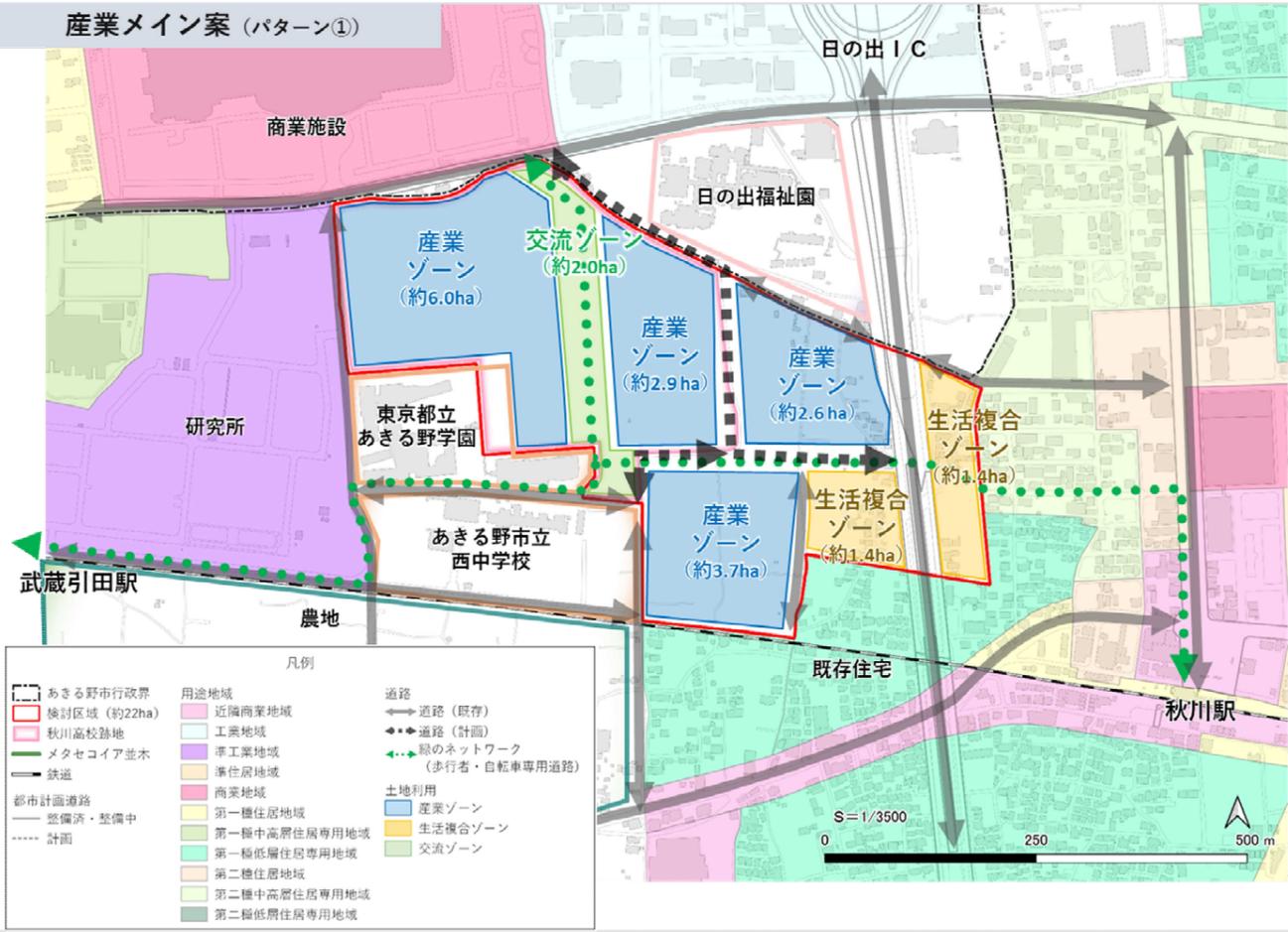
- ・ 農地付き住宅など、農を取り入れた新しいライフスタイルを発信
- ・ 農地に囲まれたあきる野らしい快適な住環境を形成



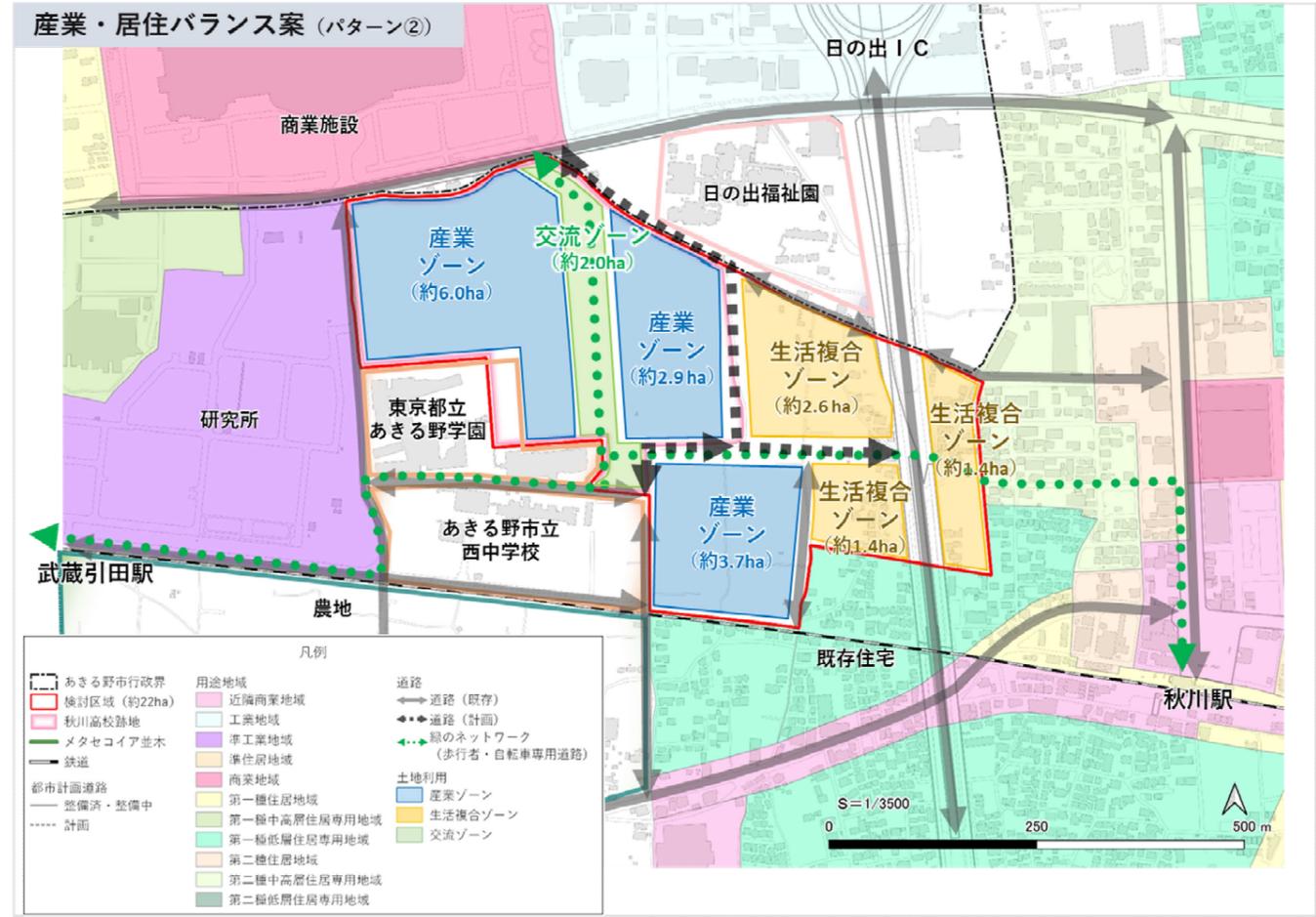
《周辺施設等との連携》

# 土地利用構想

## 産業メイン案 (パターン①)



## 産業・居住バランス案 (パターン②)



## 産業・居住バランス案 (パターン③)

